



親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が、御正當一月十六日をもってご満座を迎え、ご門主が「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要御満座を機縁として『新たな始まり』を期する消息」を發布されました。この「ご消息」のお心の一端を伺いながら、私どもの念仏申す生活について考えてみたいと思います。

ご門主は昨年の大震災・豪雨などの災害に触れられ、「それが深刻な災害となるのは、人間のあり方、社会のあり方」に起因すると述べられ、特に原子力発電所の事故は「肥大した人間の欲望」に淵源があるとご指摘されていますが、人間の欲望が「肥大した」ことの背景には「人間中心」また「自己中心」な私たちの在り方があります。

「ご消息」では続いて、そのような自己中心な私たちの有様は、阿弥陀如来さまの教えに触れて明らかになることであり、そのような「凡

「ご消息に聞く」

浄土真宗本願寺派
 仏教壮年会連盟活動推進講師
 松月博宣



ほうゆう
朋友
 第8号
 2012(平成24)年
 3月20日発行
 発行所
 京都市下京区堀川通花屋町下ル
 仏教壮年会連盟広報委員会
 題字:理事長 三嶋統吾

「朋友」とは、同信のなま。2008(平成20)年4月の仏教壮年会連盟発足にあたり、仏社会員が力を合わせ、ともに歩みを進めていこうという願いから名づけられました。

夫の身でなすことは不十分不完全であると自覚しつつ、それでも『世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ』と精一杯努力させていただきましょう」と述べられています。特に「精一杯努力」という言葉に、念仏生活での御恩報謝の在り方をお示しくくださったと受けとめたいと思います。

御恩報謝は一人一人が念仏生活の上で努力することです。ここでは自力(自分の利益)の追求から、利他(他を思いやり、他のために生きる)の生き方に、私自身を転換することとお示しくくださったと伺います。

さて昨年、ワンチュク国王夫妻が来日され注目されたブータン王国。GNP(国民総生産)では世界一六二位ですが、国民の幸福度ランキンGでは世界八位といわれています。これはGNH(国民総幸福量)という考え方にたち、物質的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさをめざしている国だからでしょうか。

ブータンを紹介する本に、「ある農村では海外協力隊のアドバイスで米の収穫量が例年の二倍近くになったが、その翌年、隊員がその村を訪ねると水田には一本の苗も植えられていなかった。その理由を聞くと『おかげさまで、今年の分まで米が穫れたので、こうしてゆっくりと生活ができています。来年はまたがんばりますから、その時はよろしくお願ひします』と言われた」とありました。

お釈迦さまがご臨終に際して最後に語られたといわれる『仏遺教経』に、「足ることを知っている者は地べたに寝るような生活であっても幸せを感じるが、足ることを知らない者は天にある宮殿に住んでも満足できない。足ることを知らない者はいくら裕福であっても心は貧しい(意識)というものがありませんが、このような「知足」足るを知る」の心での生き方への転換も、大震災と原発事故後の時代を生きる私たちの在り方であることを示唆くださったものと、「ご消息」を聞きました。



2012(平成24)年1月21日
 岐阜別院に到着です。

でしたが、少なからず我々仏教が影響を与えたといえましょう。彼らにとつては、大切な人生修行になったと思いますが、こうした事は現代の若者に欠けていることの一つといえるように思います。このような経験を習慣化することが(特に仏教者には)必要な時代にきているのではないだろうか、各員深く感じたいと思います。

この度の徒歩参拝において、出発地、到着地、双方の多くの方々に心からお礼申しあげます。また、往復共に支援体制をとっていただいた岐阜別院事務局の三人の方々に、まことご苦勞様と感謝の言葉を禁じえません。

南無阿弥陀仏

全国の仏教壮年会に「仏教壮年の歌」を届けます

「仏教壮年の歌」の男声合唱のCDが欲しい! という仏社会員のご要望に応え、この度「仏教壮年の歌」等の曲及び「仏教壮年会連盟綱領」を含むCDの製作を行いました。

収録は、2012(平成24)年1月29日(日)、滋賀県近江八幡市安土町の「文芸セナリヨ」で行われ、本願寺仏教音楽・儀礼研究所職員監修協力のもとソリスト・コーラス4名とピアニストが参加。コーラスには仏社会員も参加いただきました。全国の皆さんに聞いていただき、今後の仏教壮年会活動に役立ててもらいたいとの思いから、納得がいくまで何度も取り直し、収録は5時間にも及びました。「仏教壮年の歌」の他、「恩徳讃」「真宗宗歌」も収録されていますので、行事や研修会などでぜひご使用ください。(教区連盟事務局を通じ配布予定です。)



収録会場の「文芸セナリヨ」



CDにはピアノ伴奏も収録



ホールいっぱい「仏教壮年の歌」が響きわたり、観客がいなのが残念なくらいでした

活動推進講師の南莊先生も合唱のメンバーとして参加(右から3番目)

二〇一二(平成二十三)年度

仏教壮年会連盟

浄土真宗本願寺派

仏教壮年会連盟 理事

齋藤 巧



「中央研修会」開催報告

香川県を出発し、昨日降ったと思われる雪を市バスの屋根に乗せている光景を京都駅で見ながら、本願寺に到着しました。

平成二十四年二月十八日(土)・十九日(日)本願寺聞法会館において仏教壮年会連盟「中央研修会」が開催されました。全国の教区(特区)より五十五名の仏壮会員が参加。中央基幹運動推進相談員・活動推進講師・理事・研修委員等も含め総勢八十二名が寒さを吹きとばす熱気のもつた有意義な二日間を共にし、親交を深めました。

昨年までの「幹部養成研修会」と銘打った重苦しい名称を「中央研修会」と改めたのが一因かも知れませんが、参加者が増えました。特に注目されるのは三十代の仏壮会員が三名も参加されたことです。各地で活動中の仏壮会員の皆さんはお念仏をご縁につながっています。今回聞法会館で顔も名前も知らない全国の会員と最初の出会いの場になったことに感慨深い思いがしました。

一日目は三嶋統吾理事長より「研修のねらい」についてのお話があり、続いて小林顯英活動推進講師から「浄土真宗の教義」について、続いて中川清昭中央相談員から「基幹運動」についての講義をいただき、その後参加者は六班に分かれ、座長を中心として「話し合い法座」が開かれました。活発かつ建設的な意見が全員から発せられ、常日頃から仏壮活動に熱心に取り組んでいる情熱がうかがえました。

二日目はパネルディスカッションを中心とした全体会で、各班代表のパネリストが昨日の「話し合い法座」の内容を集約しながら多数の意見発表を行いました。最後に講師の先生方に「まとめ」をしていただき、二日間の研修を無事終えることができました。

研修会参加を機に、仏壮会員の増加をめざし機関紙「朋友」や教区報を手渡しながら背中を押したり手をひいて入会を勧めましょう。また、男女共同参画が推し進められる最近、ぜひお連れ合いの方にも仏壮会員となつていただき、男女の立場を超えたなごやかな例会が各地で開催されることを願いつつ、東日本大震災の被災地への支援も長く続けていきたいと思ひます。



岐阜教区仏教壮年会連盟が徒歩にて親鸞聖人七百五十回大遠忌法要へ参拝

岐阜教区仏教壮年会連盟理事

徳永 幸生



昨年四月九日、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要の初日に岐阜教区仏教壮年会連盟六人の同朋が、一三〇kmを踏破してお参りいたしました。連盟の「活動勧誘リーフレット」のことに「豊かさや便利さを追求するあまり多くのものを失くしてきたのではないか」とあり

ます。これに発奮、この大遠忌を機に聖人のご遺徳を偲び、本山まで歩いて参拝しようではないか!という幸田理事長の提案に賛同して実現したものでした。

そして、今度は帰路にも挑戦。本年一月十六日、ご満座の後にご門主様が「親鸞聖人七百五十回大遠



2011(平成23)年4月9日
まもなく、本山です。
伝道院を過ぎると、目の前に御影堂が見えてきました。

忌法要御満座を機縁として『新たな始まり』を期する消息』をご発布。その後、御影堂門から、橋総長をはじめ多くの人に見送られて、総長から託された『拝読 浄土真宗のみ教え』三五〇冊を積んだ、リヤカーを引きながら歩き始めました。メンバーの幸田さん(68)、徳永(69)、大野さん(67)、林さん(62)の四人は往路も経験した強者です。今回は新人の最高齢者・松原さん(71)がパワーを見せつけました。中でも一八〇cm・一〇五kgの巨体の幸田理事長は往復を無事に耐え、リ

ーダーとして、また提案者としての責任を果たしました。

毎朝、食後の読経を終え、当日の打ち合わせ後、凜とする冷気の中を出発。道中は総重量六〇kgのリヤカーを交代で引き、事務局の的確なナビゲーションに導かれながら、幾山川を越え、足を前に運ぶだけでしたが、すれ違う人からご苦



2012(平成24)年1月16日
親鸞聖人750回大遠忌法要御満座法要参拝を終え、御影堂門にて多くの参拝者・本願寺関係者に見送られ、いざ出発です。

労様と声をかけられ、手を合わす人、お賽銭を託す人など多くの優しさに触れることができました。

この徒歩参拝については、賛否両論いろいろと聞こえてきました。難易二道の難行を選択しているのではないかと、などなど。いずれにせよ、私どもは、大きな「他力



帰路の途中、リアカーが故障しましたが修理して、皆で最後まで引っ張りました。

の船」の上を何度も往復しているにすぎなかったのです。しかし、決して、無駄ではなかったと確信しています。

昨年、十一月〜十二月にかけて、岐阜聖徳学園大学の学生さんらが、五日をかけて、ご本山まで踏破しています。卒業にあたり自身自身を振り返ってみたいということ



2011(平成23)年4月4日
いよいよ岐阜別院を出発です。
本願寺まで徒歩で参拝頑張ります!!